

## 有識者協議会委員による講評

押田委員

○1年間の空白を経ての振り返りということで、改めて4つのアイデアの特徴・課題などを捉えた。ワークショップでは意見交換や現場の雰囲気を経て、取り入れたいことをアイデアに転換できていたが、時間的空白に加え、書面からでは熱量が伝わりにくく、端的になりがちのため、当方も含め、情報共有の在り方を考えていきたい。

○（事務局への要望）検討会では、各グループがそれぞれに、財源についても収益や損失を考えた上で意見を出していたと記憶している。検討会は、単に「配置のためのパズル」ではなく、「総合的なまちづくり」を目指すべきものであるため、配置の仕組みだけでなく、動線や予算なども含めてほしい。

○（事務局への要望）個別の意見でも出ていたが、アンケートにおいてアイデアの「セールスポイント（メリット）」については書かれているものの、デメリットについては十分に書かれていない。どのアイデアにも一長一短あるため、両者を対比形式で示し、共有できるようにしてほしい。

○アイデアを出す、現時点（正確には昨年末時点）の委員の考えを抽出するまでは、概ねできているように思われる。しかし、これを現場に落とすためには（現実味を加えるためには）、施工側の視点（現状の躯体の強度や耐用年数、予算など）を示さないと先に進まないように思われる。昨年度末に財務の話が出ていたが、具体的にどれくらいの予算であれば何をどこまでできるのかという話を出した方が、皆が「できること」「できないこと（できなさそうなこと）」はイメージできるのではないかと。

○コロナ禍を通じて、公園や公共施設に関わる価値観も社会的に大きく変化している。その点も踏まえ、「新たに取り入れるべき視点」についても検討するべきでないか。

今回、オープンエアーの空間である公園の使用が心身の健康に及ぼす影響については、随所で示されている。

（参考）

<https://parkhealth.jp/%E6%9C%AA%E5%88%86%E9%A1%9E/covid-19andpark2.html>

（年の緊急事態宣言下においてはじめて公式に「公園を閉鎖する」「使用を制限する」という事態になりました。2度目の緊急事態制限下においては、昨年の経験を受け、多少の緩和がみられるものの、公園管理上の安全面から一部制限は課されているものも見受けられます。

○委員の健康・安全面を考慮すると、全員が対面での開催は、しばらくは難しいように思いますが、ZOOMと対面を併用する「ハイブリッド形式」を取り入れるなどする検討会の開催が望ましいと思います。（準備等は大変かと思いますが、ご検討いただければ幸いです）

小山委員

○それぞれのアイデアのまとめが表層的な印象を受けました。また、それぞれのパターンでまちづくりを進めた場合、結果としてどのような「まち」になるのかのイメージがつかみにくくなったような気がします。どのような「まち」をつくるのか、どのような「まち」を育てるのかについて、専門委員による講演なども交えながら議論を重ねてきたと思うのですが、そうした議論の厚みがなくなってしまったように思います（一枚でまとめるにはしかたがないのかもしれませんが）。

○同種の意見として、それぞれのアイデアで実現されるまちのランドスケープが今ひとつ想像できませんでした。「つながり」「一体感」という表現はありますが、リアルなまちにそれをどう落とし込んでいくのかを表現できたらなお良いと思いました（難しいとは思いますが）。

○各公共施設の機能をどう有機づけるかという点も、十分整理できていないように感じます。あいまいなイメージが先行しているように思われました。

○「現在地維持パターン」「図書館敷地中心パターン」「公民館敷地中心パターン」はいずれも各公共施設の代替地、代替サービスの確保が不可欠です。いずれのアイデアの課題でも明確に示すべきと思います。

○災害対応という点が十分議論されていないことに危惧を覚えます。

○市民の方からの意見にあったSDGsや文化資産としての公共施設の今後をどう考えるかは、重要な視点と思いました。

○新型コロナウイルス感染症による影響があったことはしかたがありません。ただ、今回の各アイデアのまとめや、市民アンケート案を拝見したときに、みなさんがこれまでの議論を踏まえ、共通理解を得るにはもう少し議論の場と時間が必要ではないかとも感じました。良い方法は思いつきませんが、これまでの議論の積み重ねを大切にしつつ、次の段階に進めることができたらと考えます。勝手な意見で申し訳ありません。

野口委員	<p>○現在地維持、公民館敷地中心、図書館敷地中心パターンについて 概ね案の特徴と有効性を捉えていると思いますが、喜ぶという言葉使いが、現状の一時的な利益に聞こえます。実際にそうなのかも知れませんが・ また、建て替えやリノベーションの工事期間のサービス縮小の可能性も明示した方が良い気がします。 「自転車を活かした・」は、全てのパターンでも有効なキーワードであると思います。</p> <p>○全体について 「図書館敷地中心パターン」と「鹿沼公園中心パターン」の折衷案が一番現実的であり、周辺環境を取り込んだ一体的な施設整備と段階的整備、双方の可能性があると考えます。既存図書館建築の扱いに対する意見が多いことから、活用法（増築・リノベ・新築再建）の選択肢を残したまま、次のステージに進めるかと思えます。</p> <p>やはり書面形式だと、（委員・自分も含め）ことばが畏ってしまい、発言側も受取側も再読み込みが必要となり、本質を捉えるのが困難なように感じます。 アウトプットのみがフォーカスされがちで、意見の文脈が分かりづらいです。 Zoom等の遠隔開催はまだマシだと思いますが、状況厳しくとも直接顔を合わせた上での議論が相当重要に感じました。</p>
山口委員	<p>○新型コロナウイルス感染の終息が見込めない中、書面開催という方式を選択せざるを得ない状況でしたが、事務局を務めていただいている市の担当者の方々におかれましては、お忙しい中、丁寧な運営を行っていただき、ありがとうございました。また、市民検討会の委員の方々におかれましては、書面開催という方式のため、一堂に会してグループワークを実施することができませんでしたが、有意義なご意見を賜り、ありがとうございました。</p> <p>○2回の書面開催を通じて、各検討パターンの基本的枠組み（施設配置と動線の概要）及び、セールスポイントと課題について整理ができ、各検討パターンの特徴がはっきりしてきたのではないのでしょうか。</p> <p>○今後は、各検討パターンの実行可能性について、財源面からの検討を進めていく必要があると思います。ただ、財源面については、整備費用だけでなく、維持管理・運営費用を含むライフサイクルコストを考えていく必要があると思います。委員の方々からも財源面に関する意見やコメントが出されていますが、ほとんどが整備費用に関するご意見となっています。</p> <p>○床面積が増えればそれだけ光熱費、定期修繕費、大規模修繕費等が増加します。また、分散型で複数の建物となれば、同様に、光熱費、定期修繕費、大規模修繕費等が増加しますし、事務機能を共有化・集約化することができないため、人件費も増加します。</p> <p>○整備費用については補助金や交付金を活用することで手当てできたとしても、維持管理・運営費用を確保することができなければ、施設本来の機能を発揮することができなかつたり、予防保全を行うことができず、施設の劣化が加速し、後年における修繕費が増大するという悪循環に陥ることになります。</p> <p>○この点について、各検討パターンの基本的枠組みに基づき、事務局の方で試算データを提供していただき、それに基づく検討を行っていただければ幸いです。</p> <p>○特に、維持管理・運営費用が各パターンでどれだけ異なるかを試算していただき、その情報を踏まえて、市民検討会で検討していただく必要があろうかと思えます。新型コロナウイルス感染による税収減もさることながら、少子高齢化による人口減少及び生産人口の減少（年金受給者の増加）による税収減は、今後、深刻な問題となると思いますので、施設ライフサイクル全体の維持管理・運営費用の縮減を真剣に考える必要があろうかと思えます。</p>

山本委員	<p>○皆様には貴重なご意見を頂きました。誠にありがとうございました。意見を拝見し、淵野辺駅南口まちづくりへの思いを感じました。気づいた点を3つ挙げたいと思います。</p> <p>○分散グループの意見の中で「現在のまま維持するのは困難」について、意見がありました。一見すればまち（景観）は「そのまま変わらない」ように見ているがゆえに、そのように感じるかもしれません。しかしながら、まちは経済構造、社会構造を投影したもので、高齢化、人口移動、雇用などの変化で変わるものです。当方が桜美林大学や人口減少、及び高齢化をお示ししましたが、まちが変わらない＝維持することは容易ではないのです。30年後を見据えた時、淵野辺駅南口をどのようなまちにするのかという視点が必要です。既存施設をそのままにすることは、リノベ、財源確保、都市計画制度との整合性など、課題は多くなります。分散グループに限りませんが、まちは変化することに留意して、今後のご議論をいただければ幸いです。</p> <p>○次に鹿沼公園中心グループの意見の中に公共施設の跡地売却を行わないという意見がございました。これは検討会での合意ではありませんから、ご指摘の通りです。ただしまちづくりの資金をどこから捻出するのかも考えなければなりません。特に市財政が危機的な中で、住民負担、企業負担（BID:地域改善のための住民負担金）、域外の鹿沼公園ファンを巻き込んだコミュニティづくり（費用負担も含めた参加型のまちづくり＝コミュニティデザイン）のような方法も含めてご検討いただきたいと思います。</p> <p>○最後に図書館敷地中心グループでは「カフェ」への意見がありました。鹿沼公園、図書館などは社会学におけるサードプレイス（第3の場所）の役割を果たします。自宅、職場以外のくつろげる場所のことです。これがカフェだけでよいのか、あるいは別の方法があるのか、市民委員の皆様のお考えがあると思います。アンケート終了後の具体化の中で、種々ご検討をお願いできればと存じます。</p> <p>○いずれにしても、貴重な意見が多く出ましたこと、とても素晴らしいことだと思います。4つのグループを尊重し、市民の意見を率直に受け止め、淵野辺駅南口まちづくりの方向性が少しずつ決まっていくことを期待しています。</p> <p>○アンケート結果を踏まえ、方向性を決めていくことになると思います。現在の市民検討委員を継続するのは分かりませんが、これまでの成果、アンケート結果を踏まえて4つのパターンについて意見を出し合い、一つの方向性を決められればと存じます。ただ意見を拝見すると、未だに自分事の問題になっていない委員もおられます。今更ですが、まちづくりのコンセプトがないので、方法論で決め切れない感じがしております。財政再建という財源の問題がありますし、前回の複合化問題のこともありますので、拙速に決めず、それぞれのパターンのメリット、デメリットをまちづくりの方向性から定期的に徹底して考え、時間をかけて決めていっても良いように思います。</p>
鈴木委員	<p>○委員・事務局の皆さんのご努力によってここまで来たと思いますが、なお、さまざまな面、特に基本的な考え方の部分で、合意を形成することが求められているのかもしれないですね。これまで以上に、じっくり意見交換する場が持てるといいのかと思います。</p>